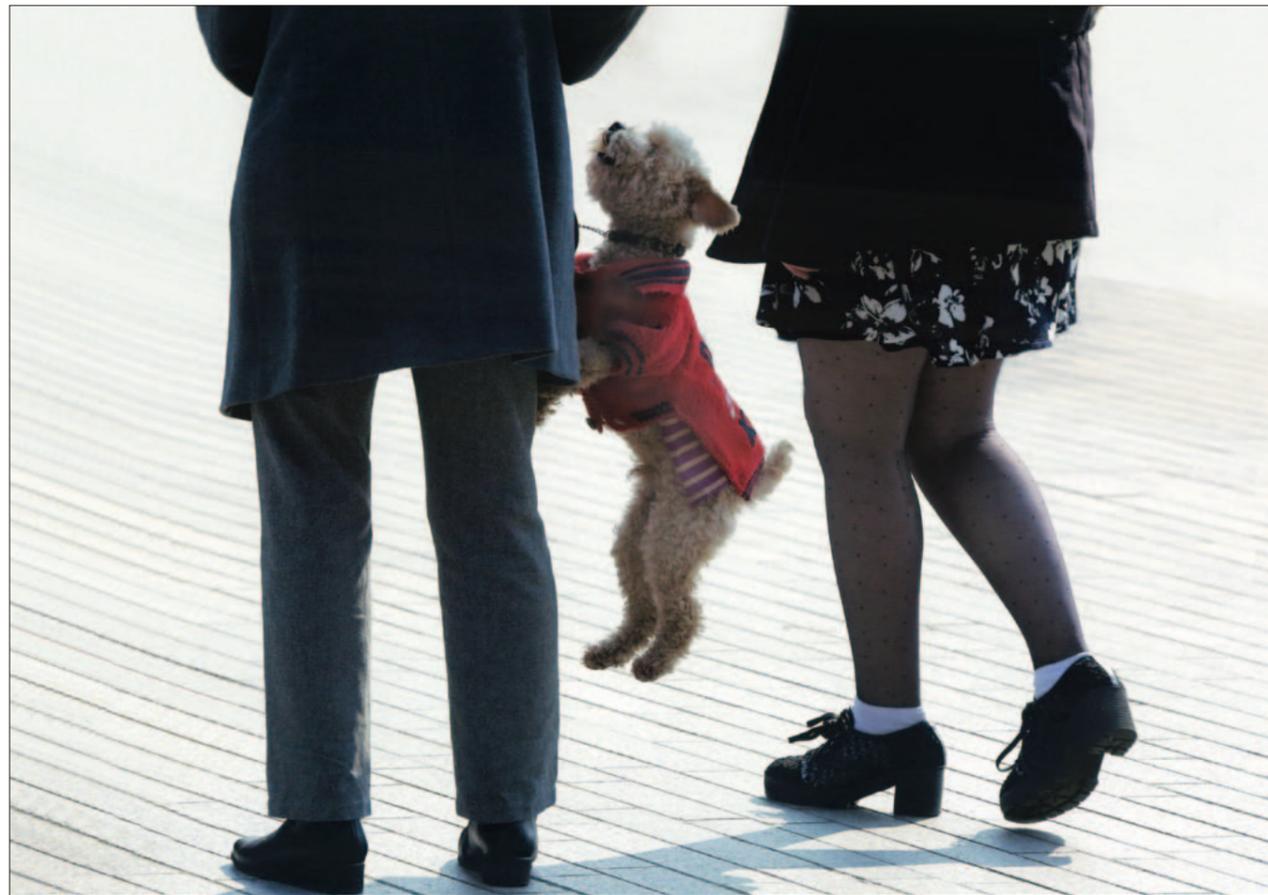




第44回静岡支部公募展【静岡支部大賞】「リズムにのって」中村忠正

【第65回二科会写真部展 9月6日(水)～18日(月)／国立新美術館】



第49回神奈川支部公募展【二科大賞】

「ジャンプ」澤地 弘

「横浜赤レンガ倉庫」でイベントがあったときに、お父さんとお嬢さん、そしてワンちゃんの一家が楽しそうに会場に入ってこられました。

ちょうど「幸せそうな家族を撮影したいな」と思っていたところで、一瞬、ワンちゃんが甘えてお父さんに飛びついてくれ、その瞬間にシャッターを押すことができました。

この度は、第49回神奈川支部公募展「二科大賞」をいただき、大変感動しております。これも浜口タカシ先生、西村建子先生をはじめ、会員並びに会友の方々のご指導の賜物と、厚く感謝しております。

(神奈川支部)

【講評】

愛情あふれる家族のスナップ作品です。子犬が甘えて飛び上がった瞬間、しかも歩きながらの一瞬を捉えています。

常に周囲に注意深く気をくばり、その一瞬をものにする素早さと確かな撮影テクニックで、撮れそうで撮れない、写真ならではの表現と言えます。瞬間を捉えた面白さと的確なフレーミングが見事です。ある家族の心あたたまる光景として、素晴らしい作品です。(審査員：西村建子会員)



第26回茨城支部公募展【茨城二科賞】

「序章」金谷 登

平成24年にラムサール条約に登録された、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県 の4市2町にまたがる渡良瀬遊水地で撮影しました。

毎年3月下旬にヨシ焼きが行われ、その後、ヨシは競うように芽を出します。広大な湿地に燃え残ったヨシが点在していて、窪地に残った扇形のヨシが目にとまりました。自然の恵みを受けて、やがて成長するであろう草木の生命力を感じながら、幾度となく撮影に通いました。

今後も、この受賞に驕ることなく、自然との出会いを大切にしたいと思います。(茨城支部)

【講評】

茨城の土地柄でしょうか、圧倒的にネイチャー関係の作品が多くありました。この「序章」は、広大な渡良瀬遊水地に何度も通いながら、ポイントを探したのだと思います。撮影場所の設定、レンズや絞りの選択なども申し分なく、シンメトリーにした画面構成も見事です。

野焼きの後の新芽が伸び始め、朝靄の中にうっすらと見える太陽と扇形をした葎が相まって、静かな朝の情景を捉えています。まさに、良質の日本画を見ているようです。(審査員：蜂須賀秀紀会員)

■表紙写真■

第44回静岡支部公募展【静岡支部大賞】

「リズムにのって」中村忠正

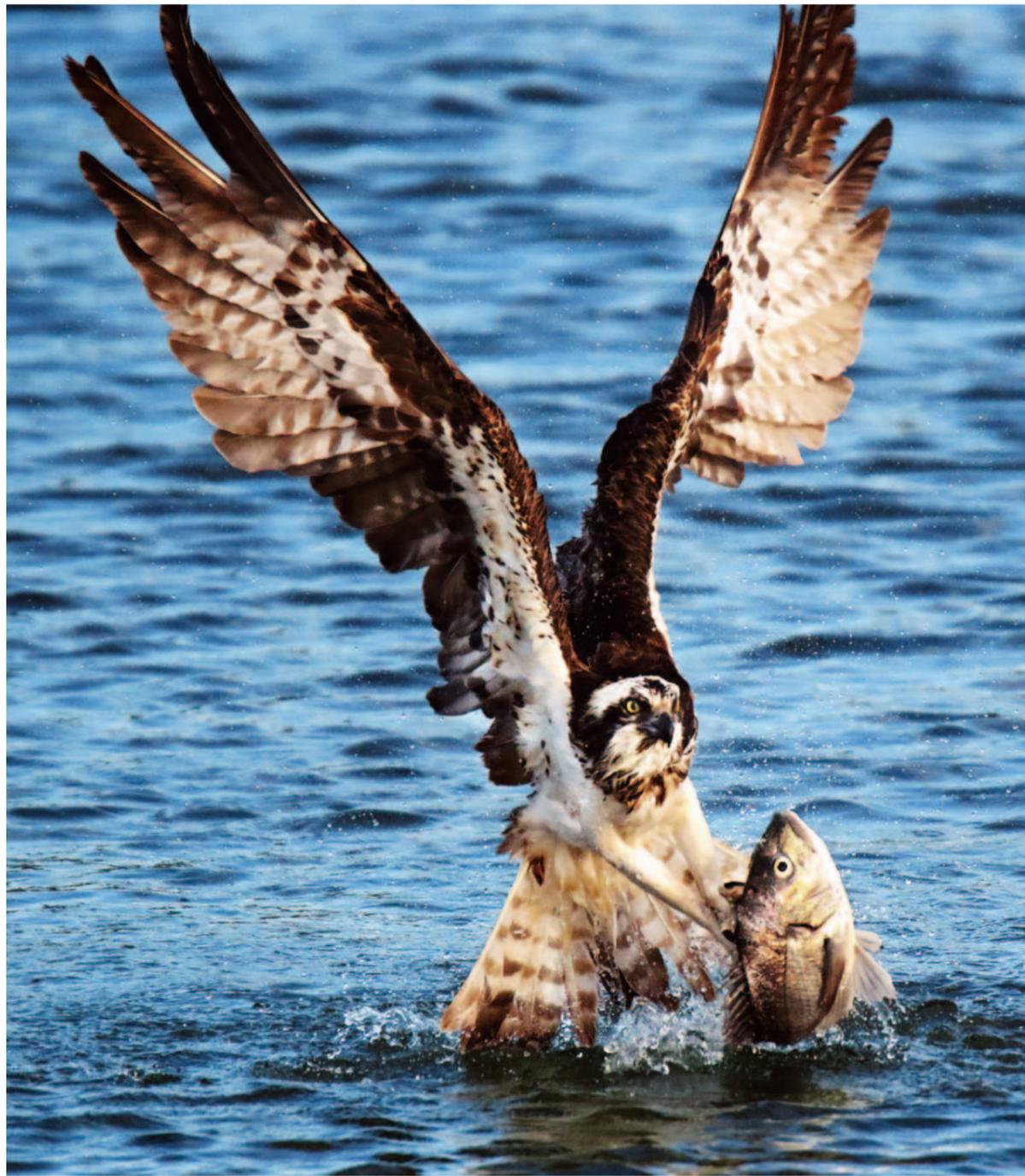
1月の例会作品用にと豊橋動物園へ撮影に出かけました。この日は寒いめか、動物たちの動きが鈍いように感じました。一人で撮影に来ると、どう被写体を狙うかがわからず、先生がいるといたないのでは、こうも違うのかと思ひ知らされました。

定番通りのコースでシマウマの所で撮影していると、柵の向こうに白いものが動くのが見え、早速行ってみると、フラミンゴが園内スピーカーから流れる音楽に合わせて踊っているように見えました。夢中で撮影した一枚です。ここには十数年撮影に通っていますが、この光景に出合ったのは初めてでした。(静岡支部)

【講評】

一般的に二科の作品は、背景処理をすることで被写体の存在を強調したものが多いのですが、この「リズムにのって」は、背景が雰囲気描写としても効果的に描写されています。多分、動物園での撮影だと思いますが、自然な感じに捉えられていて、フラミンゴの淡い色がとても上品で、上質な水彩画を見ているかのようです。

(審査員：藤森順治会員)



第53回山口支部公募展【山口支部大賞】

「大物ゲット」 福本忠男

光市を流れる島田川河口には、大きな洲があります。ここで誰にも邪魔されず飛び交う鳥たちの姿は、見ていて飽くことがありません。

いつものようにカメラを下げて何気なく立ち寄った時、旋回するミサゴを見つけ、慌てて連写。首までつかり、大きなチヌを掴み上げた姿に、生きるための壮絶な戦いと、自然の営みを感じました。一人舞台、一人観賞、一人感動。一人で見るのはもったいないこの一瞬も、一期一会の世界です。すべてに感謝。(山口支部)

【講評】

デジタル時代になり、「決定的瞬間」を撮ることは少し楽になりました。とはいえ「瞬間」を写し撮るには、努力と根気が必要ですし、狙いを定めてシャッターチャンスをつかめるのは、写真の醍醐味でもあります。この作品には、その写真の魅力を感じることができ、大賞に選ばれました。そのほか応募された皆さんの作品も、真摯に作品づくりに励んでいる様子が見える力作が多かったと思います。(審査員：村上則子会員)



第39回富山支部公募展【富山支部大賞・富山県知事賞】

「魚の世界」 岡本和宏

石川県の能登島水族館で撮影しました。水槽の中から魚を眺められる仕掛けになっており、水槽の底から楽しそうに魚を見ている子供たちの様子を捉えました。画面には写っていませんが、じつは妻が下から息子を持ち上げていて、家族全員が関わって撮った写真でもあります。

この度は「富山支部大賞」に選んでいただき、大変嬉しく思っています。家族にとっても記念すべき一枚になり、感謝いたします。(富山支部)

【講評】

最後に異質な作品が残りました。どこかの水族館でしょうか…。お母さんと子供かナ、それともお姉ちゃんかナ…。子供たちの楽しい様子、爽やかな雰囲気を上手く押さえていると思います。上にはいろんな魚が泳ぐ海中のような水槽が伸びやかに広がっていて、なかなか良い作品だと思います。(審査員：近藤誠宏会員)

第65回展公募作品の 一次審査、二次審査を実施

2017年「第65回二科会写真部展」の一般公募部門は、「単写真部門」と「組写真部門」の2部門で募集し、3月1日(水)～7日(火)の7日間、応募作品の受け付けを行いました。

今年度の応募状況は、「単写真部門」が1821名・8712点、「組写真部門」が167名・433組、単写真と組写真の混合応募が684名・6160点で、昨年比で応募者・応募点数共に減少しました。

「第65回展」一般公募部門の一次審査を4月13日(木)～16日(日)の日程で、東京・国立新美術館の審査室で行いました。審査員は、理事長及び常任理事を含む理事11人が務めました。

一次審査で単写真、組写真の中から入選内定作品を選びます。単・組写真とも、先ず個人別に審査して1名1作品に絞った後、ジャンル別に分けて審査しました。審査の結果「単写真部門」の入選内定作品613点、「組写真部門」の入選内定作品205組、合計818作品を選出して一次審査は終了しました。早速、入選内定者には展示パネルの制作を通知し、例年通り展示パネルによる二次審査を6月15日(木)に行いました。今年、名誉会員及び会員が在籍する支部から各1名が審査員として出席し、理事長及び常任理事を加えて総勢45名で審査を行いました。

はじめに、単写真パネルをジャンル別に並べて審査し、入賞候補作品41点を選出。次に組写真パネルをジャンル別に審査し、入賞候補作品23点を選出。更に両部門とも審査を重ね、それぞれ5作品まで絞り込み、次に両部門の10作品を同時に並べて審査して、その中から上位3賞候補として4作品が残りました。ここで1作品ずつ挙手による多数決で、もつとも数の多かった作品を「二科賞」とし、2番目が「全国知事会賞」、3番目が「日本カメラ財団賞」に決定。次に「単写真部門」協賛会社賞22賞と奨励賞3賞が決まり、次に「組写真部門」協賛会社賞16賞と奨励賞7賞が決まりました。これにて第65回展の一般公募部門の審査は、すべて終了しました。審査員の方々、ご協力いただいた皆さん、大変お疲れ様でした。〈事務局長・片岡順一〉

■二次審査■

全国の各支部から名誉会員及び会員が出席した総勢45名の審査員によって、入賞作品を決める二次審査を行った。審査員の前にパネル作品が並べられると、活発な意見が続出し、審査会場は一気に熱気に包まれた。



組写真パネルと対峙する審査員。緊張感のある審査が長時間続いた。

第65回展一般公募部門 二次審査出席者

- 審査委員長：森井禎紹会員
- 審査員：近藤誠宏会員、大山荘一会員、高橋扶臣男名誉会員、角尾栄治会員、大貫亘会員、西村建子会員、土田貴夫会員、川畑雅弘会員、能島誠一会員、入交貞悦会員、野中正敏会員、雪竹智会員、宮原博美会員、前和幸会員、檀上善一会員、松下裕美会員、宗前敏光会員、北野末吉会員、横島昇会員、森住博会員、佐々木聡会員、一色龍太郎会員、菊川浩行会員、川口和子会員、伴野雄三会員、細川伸吉会員、伊藤滋会員、宗岡泰昭会員、大森和仁会員、生田英明会員、田辺三郎会員、八木富夫会員、南村初江会員、角田良一会員、門間至知会員、塚本東明会員、笹川義信会員、古谷野より子会員、河瀬貴明会員、角田行生会員、遠藤衛会員、出合章泰会員、福井一成会員、小幡猛会員
- 担当理事：市川喜久雄会員、藤森順治会員
- 立会：今井寿雄会員、柳原香会員
- 進行：片岡順一会員、天内紀元会員



審査が大詰めになったところで審査員全員が前に出て作品をチェックした後、挙手によって入賞作品が絞り込まれた。



■一次審査■

第65回展一般公募部門 一次審査出席者

- 審査委員長：森井禎紹会員
- 審査員：近藤誠宏会員、大山荘一会員、川本征紀会員、市川喜久雄会員、徳永美奈子会員、樋口幸雄会員、藤森順治会員、秋田隆司会員、鈴木洋一会員、佐藤ちえ子会員
- 立会：今井寿雄会員、柳原香会員
- 進行：片岡順一会員、天内紀元会員



第65回展公募部門の一次審査は、4日間にわたって行った。全国から応募された作品は、丁寧に公正に審査され、入選内定作品を選定した。

第65回二科会写真部展 入賞者・入選者一覧

- ◎二科賞「親子」安井 孝(愛知)
- ◎全国知事会賞「凱歌斉唱」竹花信一(岩手)
- ◎日本カメラ財団賞「妖しく咲く」入江一明(福岡)

■単写真部門入賞者

- ・トキナー賞「祭りの子」神谷 博(愛知)
- ・オリンパス賞「光景」中曾郁夫(広島)
- ・タムロン賞「キャッチ」犬塚勝正(愛知)
- ・セコニック賞「緑泳」塚本芳子(京都)
- ・富士フィルム賞「木洩れ日」小田武美(長野)
- ・エプソン賞「風の悪戯」小杉和好(静岡)
- ・ニコン賞「ラフティング」後藤路子(広島)
- ・DNP フォトイメージングジャパン賞
「龍雲」深澤 譲(静岡)
- ・加賀ソルネット賞「神磯」深作正一(茨城)
- ・エイエムエス賞「膨らむ母鳥と雛」渋谷俊隆(香川)
- ・エターナルラボ賞「幡行列」熊田行雄(福島)
- ・カラーサイエンスラボ賞「火渡り神事」宮本節夫(奈良)
- ・写真弘社賞「木陰」那須裕一朗(福岡)
- ・ダイコロ賞「直前横断」辻 博明(奈良)
- ・トミカラー賞「集合・礼」岡本真壽美(奈良)
- ・フレームマン賞「遊泳の群れ」関 智恵子(福岡)
- ・プロラボホワイトアース賞「冬山にて」柴田礼子(広島)
- ・堀内カラー賞「薫風」おどみ岐調(徳島)
- ・ラボネットワーク賞「夢の世界」斉藤 宏(愛知)
- ・フォトコン賞「豚のロデオ」小刀 章(広島)
- ・アサヒカメラ賞「家路」生駒君男(愛知)
- ・日本カメラ賞「杉林を飛ぶ」柴田 醇(広島)
- ・奨励賞「傘雲」有泉義行(山梨)
- ・奨励賞「誘い (いざない)」菅原修二(京都)
- ・奨励賞「ハプニング」山川 勇(熊本)

■組写真部門入賞者

- ・シグマ賞「朝霧の景」花木義孝(三重)
- ・キャノン賞「アフタヌーン」山川照美(兵庫)
- ・イーストウエスト賞「光の行方」澤下由里(鳥取)
- ・日本ジャンボー賞「帰り道」梁井英雄(三重)
- ・リコー賞「嫁ぐ日」棚橋仁志(徳島)
- ・ケルヴィン賞「流鏝馬の日」北中和子(石川)
- ・ダイコロ賞「祭の子等」吉田亜佐子(兵庫)
- ・フジカラー広島中央賞「つる花模様」萩原武男(茨城)
- ・クリエイイト賞「駆動」常石由美子(滋賀)
- ・フレームマン賞「葉彩」檜山正義(茨城)
- ・堀内カラー賞「ファッションシティ」関町光子(栃木)
- ・ラボネットワーク賞「白くま君」市口雅子(兵庫)
- ・ビクトリコ賞「夜の終着駅」土屋祥子(東京)
- ・フォトコン賞「遊泳」高橋忠男(秋田)
- ・アサヒカメラ賞「時を歩む」若槻龍児(兵庫)
- ・日本カメラ賞「イーグルハンター」森田浩志(広島)
- ・奨励賞「休漁日」大沼愛子(東京)
- ・奨励賞「旧懐の舟屋」小澤ミヨ子(神奈川)
- ・奨励賞「冬のとばり」安田保郎(岐阜)
- ・奨励賞「幽明境」北川恭一(滋賀)
- ・奨励賞「街角」池本和枝(広島)
- ・奨励賞「剣士」大和章人(徳島)

■単写真部門入選者

- 北海道
笠原智恵子
狩野美香子
斉藤惣一
辻 義照
長瀬千鶴子
秦 憲一
平間恵美子
本間公三
渡辺春美
- 青森県
東 修司
小橋哲也
佐藤幸一
- 岩手県
板垣弘清
鈴木道明
高橋 清
松島哲夫
山下健二
- 秋田県
山郷岡富男
泉谷芳昭
大川紀夫
小谷美保子
小畑洋一
菊地喜二郎
菊地 弘
菊地光男
小松正幸
小松正春
今野清美
齊藤 等
佐々木久子
佐藤 彰
佐藤 穎
須藤秋男
高橋健一
高橋信夫
濱田格子
平塚幸江
三浦奉文
門岡栄子
山口祥敬
山口裕子
山崎 剛
興齊俊雄
- 山形県
青山久爾秀
安達幹郎
石澤昭雄
伊藤新三郎
伊藤義子
奥山陽一
加藤孝壽
木村義則
倉金秀弥
斎藤和男
鈴木典夫
鈴木義美
田中二男
布川貞雄
原田隆吉
矢田目敏弘
- 宮城県

- 青木威世男
昆野三津男
佐々木俊江
竹内邦昭
村上勇一郎
- 福島県
遠藤文夫
木村咲子
久間木俊二
黒岡 隆
齋藤広亨
佐藤一旭
佐藤由弘
清野由美子
高橋清良
内中和雄
丹治美知夫
三浦照生
村井俊道
村田 博
柳橋通子
渡辺孝一
- 新潟県
安部 諭
井川康徳
内山義昭
風間ヤヨエ
片桐幹夫
工藤信朋
小関淳司
小林一美
佐々木純子
高野栄子
田村 勲
中村豊美子
野崎洋子
野島俊介
渡辺昭子
- 東京都
内田一成
江口智子
江副洋介
海老沢光治
太田赫子
大山秀雄
鎌木康之郎
中山憲一
山中國安
横手 進
- 神奈川県
伊藤雅子
今澄鈴子
国塚隆志
澤地 弘
瀬戸真美
三村信昭
- 千葉県
小泉 仁
関本 好
森 誠子
- 埼玉県
池田靖子
桜井孝子
鈴木豊士
高田泰子
高橋 桜
塚越二男
都築幸弘

- 中村不二男
野口清史
深町満夫
堀口 清
向山南海子
諸 五郎
吉野絹枝
- 群馬県
大山京子
小坂 明
関 章寿
宮崎倉明
湯本 晃
- 栃木県
大島玲子
君島哲郎
佐野康晴
- 茨城県
小豆畑栄作
飯田光信
石島俊一
大石美奈都
大川元通
岡崎正子
海東えつ子
加藤芳子
金谷 登
菊池修典
後藤勝義
鈴木正大
竹内 治
沼田圖南
野上弘子
星野 雅
三浦 洋
武藤隆一
村山秀雄
茂木武幸
森田近江
吉川和利
渡辺 清
- 山梨県
秋山義夫
桐山晃一
関谷哲夫
田中資孝
常川亘敬
中辻和子
中村隆市
西脇一熙
林 都美子
藤中 浩
水野秀治
宮地美和子
- 三重県
池山ふみ代
池山資信
石川伸行
岩谷義治
植木政弘
内山 修
遠藤義光
大橋哲也
金谷克造
倉田佳代子
近藤茂樹
清水和雄
清水佑紀

- 三神政之
宮坂 誠
矢澤直司
柳澤正秋
吉池征雄
- 愛知県
相川 修
朝倉澄男
安達和子
穴澤孝子
安藤敏夫
安藤年孝
稲垣 茂
稲葉 進
井本岩男
内村美也子
大島 守
大矢真理子
小川清美
梶田敏彦
藤濤浩史
古池雅之
高村昌利
後藤久雄
小林芳一
佐古忠夫
重松義明
白井和利
杉浦好子
鈴木 功
鈴木節子
高田千鶴子
竹島宏術
外勢 肇
花井晴子
平野 肇
深谷邦雄
藤田國雄
松田 香
松野正衛
村井弘子
淀川清登
- 岐阜県
桐山晃一
関谷哲夫
田中資孝
常川亘敬
中辻和子
中村隆市
西脇一熙
林 都美子
藤中 浩
水野秀治
宮地美和子
- 三重県
池山ふみ代
池山資信
石川伸行
岩谷義治
植木政弘
内山 修
遠藤義光
大橋哲也
金谷克造
倉田佳代子
近藤茂樹
清水和雄
清水佑紀

- 城島正子
富田 弘
中村石晶
西村康夫
野呂幸樹
藤原 雅
森下喜美子
山田善和
山脇佳世子
吉野聖夫
- 福井県
金岡珍九
島邑 博
山内和子
- 石川県
大山善治
久保勝敬
柴田朋子
清水一與
高橋純治
中島治人
福井節江
室梅利幸
森田武年
米村佳久
- 富山県
米屋幸蔵
島野洋子
高橋一枝
永山勝久
光岡初代
吉田孝之
- 京都府
上井絢子
小川智子
大橋政美
角井正博
川村雅範
壺井則行
林 豊
- 滋賀県
岸 洋子
小早川とし子
小原正治
田中宏子
寺田功子
西本睦子
吉村仙二郎
- 兵庫県
今村光政
上田禎亮
奥平辰生
鈴木三榮子
谷村周慈
浪方典宏
廣納忠良
- 奈良県
岩本劬子
大西 瞳
久保秋雄
武田雅男
築山忠一
豊川春光
中島 巖
中野久悦
町井隆志
三好克己
- 和歌山県

- 大畑達郎
笹本教導
龍田経子
山田昭三
- 大阪府
石井睦子
岡田千恵
岡本哲師
尾原正洋
川内 陽
勘田征雄
近藤昌宏
田中由美子
土岐令子
友田 達
永井健康
中地功夫
仲田亮治
原 ツヤ子
松岡幸子
三好 茂
山口順三
- 鳥取県
近藤泰造
松本利秋
- 島根県
金築 哲
黒川恵美子
島本睦男
出川正廣
中島 哲
古瀬俱之
- 岡山県
赤堀泰一郎
小林雅之
金谷 侃
金高正典
橋高繁福
木村伸一
黒住洋子
小橋恵子
下山桂市
藤取教示
藤原増幸
三宅義親
森兼高志
森本俊生
行本忠男
- 広島県
秋中弘匡
朝枝加津子
石川正通
伊藤多嘉志
伊藤久之
稲水 惇
稲水まり子
井上良孝
入江昭子
岩倉香陽子
内田信也
宇都宮雅江
撰 有三
大石正臣
大戸富士恵
大宮悦子
岡崎美子
奥林奈津子
柿田信子

- 掛谷春夫
梶本協治
金尾富士子
川崎雅俊
河中文雄
河村昭二
岸飽和夫
楠 仁志
倉見千恵子
桑田泰行
桑原 量
小澤 豊
古埜勝治
小原三津枝
坂田昭和
佐藤和実
佐藤秀士
佐藤吉秋
重政宗孝
白山貴治
末岡一登
住田英造
瀬尾 清
園田三恵
高倉果林
高橋良惇
滝口勝則
立花茂樹
田中勝治
棚谷 彰
谷村隆夫
谷本悦雄
土井 晃
土井 孝
徳重 毅
徳永武昭
富田 潔
中村公子
中村 平
中山計士
名越 稔
野田秋雄
萩野美保子
藤原恵美子
浜田 裕
原田 寛
原山広寿
平岡林子
廣瀬良治
藤井範子
藤川タカコ
藤川豊子
古川美恵子
本家昭良
松原忠則
松村泰行
丸本正己
三木園子
三戸元子
宮田憲雄
村岡兵衛
村山哲朗
山崎克朗
山下康一
山田善司
山田良隆
山出一成
山西邦雄

- 山本宣男
湯木 弘
吉川昭子
- 山口県
赤野 馨
生島鈴枝
井生よし江
井上弘成
川田君代
近藤悦子
重弘佳子
立野真純
田村 肇
常村敏彦
野村和彦
幡生佳彦
藤井孝子
宮崎紀与二
山田正明
山田康子
渡辺美沙
- 香川県
石塚喜代司
佐竹博之
谷澤 晃
原田美智子
森川輝男
渡邊泰平
- 徳島県
幾田茂仁
石川徹雄
郡 英明
鈴江純史
谷 嘉明
堤 信寿
島井敬一
平澤澄子
南 敦子
森住孝義
- 高知県
川添浩介
川谷秀典
杉野満夫
竹内裕子
武市美和
田中一郎
東富晋幸
松木宣博
- 愛媛県
上岩静雄
宇都宮栄一
楠本真大
窪田竹雄
佐々木公子
清水博充
高岡芳男
高木 昭
中矢 勉
- 熊本県
石橋幸治
岩永繁廣
江藤聡子
緒方宏子
柿田 浩
北村幸雄
山田義明
引地道子
広瀬美智子

- 山本宣男
湯木 弘
吉川昭子
- 山口県
赤野 馨
生島鈴枝
井生よし江
井上弘成
川田君代
近藤悦子
重弘佳子
立野真純
田村 肇
常村敏彦
野村和彦
幡生佳彦
藤井孝子
宮崎紀与二
山田正明
山田康子
渡辺美沙
- 香川県
石塚喜代司
佐竹博之
谷澤 晃
原田美智子
森川輝男
渡邊泰平
- 徳島県
幾田茂仁
石川徹雄
郡 英明
鈴江純史
谷 嘉明
堤 信寿
島井敬一
平澤澄子
南 敦子
森住孝義
- 高知県
川添浩介
川谷秀典
杉野満夫
竹内裕子
武市美和
田中一郎
東富晋幸
松木宣博
- 愛媛県
上岩静雄
宇都宮栄一
楠本真大
窪田竹雄
佐々木公子
清水博充
高岡芳男
高木 昭
中矢 勉
- 熊本県
石橋幸治
岩永繁廣
江藤聡子
緒方宏子
柿田 浩
北村幸雄
山田義明
引地道子
広瀬美智子

- 田代真治
田中 寛
永田淳子
増田俊次
増田哲子
真角伸子
松田良二
水野磨智子
椋本和範
森 廣子
森田恭平
山口博信
山崎恵二
山田英子
山中良子
吉川孝雄
吉塚勇雄
吉富 定
米子浩幸
渡辺和幸
渡辺喜代
- 佐賀県
野村詩朗
山田正男
- 長崎県
大石久志
梶 茂
椋島茂次
黒岩 誠
原川靖宏
和田哲弘
- 大分県
宮崎隆博
八坂ミヨ子
- 宮崎県
島田真由美
浜田幸一
原 政樹
三好啓司
- 鹿児島県
池田 穰
伊地知国雄
内野 正
海老原孝一
大迫豊昭
大田憲子
春日富士子
黒木芳秀
坂口志保子
帖佐康吉
松永マリ子
松元禮子
吉本勝子
- 沖縄県
添石幸安
添石艶子
- 福岡県
秋吉道昭
井上真由美
入江千鶴子
金森正太
神崎五十雄
北川雅一
久保純子
吉賀征子
近藤幸子
斉藤啓子
城後健二
白水清光
平良朝子
武田新一
竹野征四郎
田中文夫
塚本照彦
豊福勝幸
葉石美和子
浜田義明
引地道子
広瀬美智子

- 廣田俊憲
藤原百合子
増田俊次
増田哲子
真角伸子
松田良二
水野磨智子
椋本和範
森 廣子
森田恭平
山口博信
山崎恵二
山田英子
山中良子
吉川孝雄
吉塚勇雄
吉富 定
米子浩幸
渡辺和幸
渡辺喜代
- 北海道
加藤義勝
佐藤堅一
椿 拓治
長井 健
- 青森県
鈴木登志夫
中里春文
- 岩手県
田村雅子
寺館正美
星 岩男
- 秋田県
五十嵐邦彦
佐々木初子
- 山形県
阿部和行
鈴木一夫
鈴木貞治
- 宮城県
尾形昌文
山田愛子
渡部うめ子
- 福島県
岡本 隆
穀野只信
齋藤ひろ恵
- 東京都
浦崎正江
勝沼淳子
白石志津子
高橋 晃
津田節哉
富澤俊彦
中島勝武
中西次郎
西原博子
林 三平
藤井重彦
むらし和明
森 雅訓
森岡幸幸
山下勝彦
渡邊文男
- 岐阜県
石榑ゆうこ
赤尾郁夫
浅野輝雄
梅村幸男

- 由宇芳上
- 埼玉県
井上泰江
笠原 明
熊田繁夫
小林順一
小宮実千穂
巽 寿一
- 栃木県
青木恭子
鈴木 泉
- 茨城県
石原民雄
大森正義
澤田洋男
矢野幸好
瀬尾繁喜
関 親徳
富田節男
中島健夫
中山律子
額賀喜美子
橋本義昭
廣瀬一三
森田早輝子
和田勝子
- 静岡県
小栗三恵子
小宅菓子
田中利次
天満厚子
平田弘治
松永愛子
松原敏夫
渡邊節子
- 長野県
遠藤甲午
花岡喜久雄
- 愛知県
浅井千恵
味岡定二
跡見美穂子
大槻富士枝
小川正勝
加藤勝己
加藤秀男
栗林 誠
瀧本明美
笹井茂栄
漸井五一
高橋 晃
津田節哉
富澤俊彦
中島勝武
中西次郎
西原博子
林 三平
藤井重彦
むらし和明
森 雅訓
森岡幸幸
山下勝彦
渡邊文男
- 岐阜県
石榑ゆうこ
赤尾郁夫
浅野輝雄
梅村幸男

- 岡安敏子
加藤明美
加藤麻美
兼松克司
加納益雄
亀山正博
小堀富夫
篠田重規
末松正弘
高橋富美子
津崎 坦
中井孝弘
西村昭人
西脇里子
日比野美津子
古田史昭
矢崎章郎
山口義文
- 三重県
阿部道男
岩田 一
西井寛一
西岡文弘
萩原清春
- 福井県
高木美栄子
- 石川県
上田 正
神谷義夫
富澤 進
中口明美
水尾伸子
与五沢良枝
- 京都府
足立順子
市田清子
小林達也
鈴木直史
- 滋賀県
上田 薫
- 兵庫県
伊藤協治
浮田賢治
内田玲子
大海功夫
高田周二
高原澄子
千原一司
千原美津枝
津田 恵
寅生壽廣
原田佐夜子
平松国秀
宮川和昌
- 和歌山県
青木義雄
竹澤恒雄
服部 洋
樋川藤之
眞島邦子
山口清子
- 神奈川県
河合和信
- 千葉県
石榑ゆうこ
赤尾郁夫
浅野輝雄
梅村幸男

- 安養寺 亨
石丸なつ子
大田和夫
角 尚子
- 島根県
尾崎美智
- 広島県
大泰司尚子
鍵本裕次
黒杭昭夫
後藤文夫
重政隆人
高橋好枝
銅堂健一
村上和子
山口勝弘
- 山口県
一柳敬行
兼清克己
江田光信
古村裕子
前田孝暁
- 徳島県
秋山修一
土橋成行
森住 啓
- 愛媛県
原 務
藤澤榮子
森 泰三
山脇 明
- 熊本県
石井陽子
永田敦彦
- 沖縄県
新城直美

第65回展公募作品の 審査を終えて

出席者
理事長・森井禎紹会員
常任理事・近藤誠宏会員
常任理事・大山荘一会員

森井 第65回展一般公募の審査が、無事に終了しました。ただ、ここ数年、一般公募の応募点数が減少傾向にあって、主催者としては残念な結果になっているのですが、これは年々、会友推挙者が増えているために、その数だけ応募者が減っているのが要因の一つになっていることは確かです。そうは言っても、来年度は応募の減少を食い止めなくてはなりませんので、その対策を考えて、会員・会友の方々には応募が増えるように、更なる尽力をお願いする次第です。

応募作品全体の印象としては、デジタルカメラの普及によるものかは定かではありませんが、作画の平均的なレベルは高くなっているように思います。が、いっぽうで被写体の選び方が安易になってきているのではという感じがしました。やはり新鮮な被写体を見つけ、新鮮な狙い方、新鮮な撮り方で作画することが大事なのですが、写真の内容からも、安易にシャッターを切った写真が多かったのかなと思いました。

二科会写真部展 に 入選するための ポイントと対策

審査担当常任理事
大山荘一(会員)

第65回展一次審査を終えて

第65回二科会写真部展公募部門の一次審査は、去る4月13日から16日までの4日間で行いました。応募状況については、残念ながら昨年度比で応募人数171名減、応募点数604点減となっております。

今年度の応募傾向については、前年と大きく変わったようには感じませんでした。国内の写真では、例年どおりスナップ、祭り、風景が多く、海外では、発展途上の国々の写真が減り、都会で撮影した写真が目立ちました。

二科会写真部展公募の審査と 作品評価の基準

審査では、単写真・組写真ともに1点応募の作品から行いました。1点応募は、一度に8名の作品を審査員の前

組写真の場合は、3枚組の内の1枚に難があると指摘された作品が、けっこうあったように思います。1枚の写真の出来がよくなかったり、1枚が組の構成に合っていないと、全体のバランスがよくない。組写真を応募される方は、組写真の作り方、組写真の見せ方などをこれから真摯に勉強されたいと思います。

近藤 応募の組写真を見てみると、組み方が下手だと思えますね。組写真は何枚かの写真で表現しようというテーマがあるわけですから、写真を構成して見せることで、テーマの物語性とかメッセージが生まれてくる。1枚では表現できないから2枚になったり、3枚になったりするんですが、作品の内容をより充実させるためにはどうするか、しっかりと考えてもらいたいと思いますね。

1枚写真で何かを伝えようとしてもそれはけっこうむずかしいことで、その点で組写真は、表現したいこと、伝に並べます。1点ずつ審査して予選通過の可否を判断するのですが、当然、1点応募の場合の予選通過は、かなり厳しいものになります。2点以上応募の場合は、まず1名1作品に絞ります。やはり1〜2点応募は予選通過がむずかしく、4点以上応募では予選通過が多くなる傾向があります。

予選通過した作品は、単写真・組写真ともにジャンル別に分類し、2回目からの審査は、同一ジャンルの作品を同時に並べての審査を繰り返し、ピンとや画質、類似の内容などをチェックして入選内定作品を決定します。

作品の評価基準については、あくまでも作品本位で評価しますが、評価基準になるのは、

- ① 作品の内容
- ② 作品の表現性
- ③ 作品の新鮮さ
- ④ 作品のメッセージ
- ⑤ 作品の記録性・報道性
- ⑥ 作品の創造性
- ⑦ ピント、色調など画質、シャッターチャンス、フレーミングなど作画テクニックと描写力

この他に、被写体が同じ写真が複数ある場合は、比較検討して、もっともよいとされる作品を残します。

つまり、①過去に発表された作品を真似しないで、新鮮みのある作品であること、②作者の思いや感情を込めた個性的な表現であること、③カメラやレンズの性能を駆使して撮影し、作画

えたいことが、もっと明確に視覚化することができるわけで、それが組写真の魅力だし、面白さだと思います。1プラス1が2ではなく、3とか5になるように組み方や見せ方を工夫し、考えたりすることも、写真の楽しみ方であって、そこまで楽しむと、写真がどんだん奥の深いものになり、写真に対する向上心も芽生えてくるはずですよ。

組写真のレベルが低いと嘆く向きもありませんが、複数の写真によって作者が伝えたい思いとか、訴えたい内容を表現しようとしている、その努力を暖



左から、近藤誠宏常任理事、森井禎紹理事長、大山荘一常任理事

テクニクのしつかりした作品であることなどが求められ、審査においては、それらが総合的に判断されます。

画面合成など画像処理された作品であっても、創造性に優れた作品は大いに歓迎します。ただ、画像の合成などが容易にできるようになって、意図して審査員の判断を欺くような、安易な画像処理は感心しません。

入選するための作品づくりのポイント

いずれのジャンルの作品も同様ですが、過去の作品に捉われず作品づくりが、過渡期に取り組んだ成果を応募した、新鮮で意欲的な作品が、最終的に入選として残り、結果が報われるのだと思います。そして作品は、プリントの仕上げがとても重要です。入選作品は、作品内容とプリントの仕上げが相まって達成されることは、どの公募の場合も共通の認識と言えます。

入選するには、運不運もあります。前述のようにジャンル別に分けられた審査では、富士山など人気撮影地の同じ場所で撮影したと思われる写真が、同時に並べられませんが、その中からは数点だけしか残りません。支部の撮影会や仲間撮影に出かけると、どうしても同じような作品が出来ます。結果として互いに足の引っ張り合いになってしまうと思います。事前に支部内でよく相談して応募することをお勧めします。また、組写真は1組3枚で構成しま

かい目で見守って育てて行きたいと、私は切に願っています。

大山 デジタルカメラの普及に伴ってシャッターを安易に切りすぎる傾向は実感としてあります。デジタルカメラになって、撮影後に自分でトリミングとか、画像処理が簡単に出来るようになったため、撮影時にフレーミングとかをきっちりしないで、風景などは広めに撮っておいて、パソコンでトリミングをする人が増えていきますね。トリミングするのはいいのですが、トリミングしすぎて、大伸ばしするとドットが目立ったり、画質が極端に劣化する写真が、応募作品の中にも見受けられます。

フィルム時代は、カラー写真の場合、自分では簡単にトリミングできなかったもので、フリンダーをちゃんと覗いて、フレーミングをきっちり決めてからシャッターを切っていたものです。デジタルカメラから始めた人は、そういった経験がないから無理ないかもしれないませんが、もっと撮影に真剣に取り組んで、写真を撮るという行為を楽しんでもらいたいと思いますね。これは指導者が勉強会や撮影会などで、指導すべきことだと思います。いい加減に写真を撮っていると、どんどん写真がつまらなくなってしまうです。せっかく趣味として写真をはじめたわけですから、充実した人生を送るためにも、心底から写真を楽しんでいただきたいと思っています。

ですが、3枚の写真の構成が意外と出来ていません。むしろ単写真で応募したほうがよかったと思われる作品があります。3枚組の内2枚はよいが、もう1枚に難がある組写真も多々ありました。組写真は、単写真とは違った表現の面白さがあります。組写真で見せることの意図をよく考え、組写真の醍醐味を楽しんでいただきたいものです。

もっとも大切なのは、ご自分が撮りたいものを多く撮ることだと思います。そして、支部の例会や勉強会に積極的に参加して、適切なアドバイスを受けられることが重要であり、多くの人の写真を見て、何かを吸収しようとする向上心が大切です。

応募点数など応募の方法

二科会写真部展の場合、応募点数に制限はありません。1点だけの応募から数10点応募まで様々です。その中で入選する確率が高いのは、単・組写真ともに5点から10点応募がもっとも多いようです。日頃、熱心に作品づくりに取り組んでいると、必然的に応募する作品も多くなります。平均的に作品レベルも高く、積極的な写真活動の成果と考えられます。

応募は単写真か組写真か、あるいは単組混合か、どの方法が有利かと迷われる方も多いと思いますが、いずれも作品本位ですので、自信を持って応募することに尽きると思います。

[Photo: 島谷義明会員(広島支部) / 濱元 晃会友(広島支部)]



「壬生の花田植」本番には、早乙女、造花で飾った花鞍をのせた代掻きの牛、囃子方などが勢ぞろい



森井理事長が演出して撮影指導（前夜祭）



「壬生の花田植」の撮影場所にはカメラの砲列ができた



<上>神楽舞台の前でカメラを構える参加者
<左>「芸北神楽」を舞台の前で興味津々で見入る近所の子供達



<上>前夜祭の開会式で挨拶する宗岡泰昭支部長
<左>前夜祭で、加計高等学校芸北分校生徒による神楽に参加者がかぶりつきで撮影

【広島】「壬生の花田植」と「芸北神楽」の撮影会を豪華絢爛に盛大に開催

広島支部主催の撮影会が、去る6月18日(日)に行われ、前日の17日には前夜祭が賑々しく行われた。撮影会の開催地は、1千メートル級の山々が連なる西中国山地の麓に位置する北広島町。ここに先祖代々受け継がれている「花田植」と「神楽」の魅力を知ってもらうことと、全国の写友の皆様と交流し懇親をより深めることを目的に開催した。

撮影会も最高潮で連写モード盛りあがった前夜祭

6月17日(土)の前夜祭には135名が参加して、盛大に宴が行われた。屋外神楽専用ステージで、地元の加計高等学校芸北分校神楽部の生徒たちによる勇壮な「大和の大蛇」八人舞が、舞台狭しと演じられた。参加者は、その迫力に驚かされ、撮影も最高潮で連写モード、十分に堪能した。辺りに宵闇が迫る中で、地酒を酌み交わしながら山間部の爽やかな風を受け、写友と和やかに時間を忘れて楽しむことができた。

前夜祭には、広島県副知事、北広島町町長、教育委員会、観光協会ほか、

多くの方々列席いただき、お祝辞を賜った。地域を挙げての全面支援と協力をいただき、ただただ感謝。また、参加者の宿を提供していただいた民宿の皆様方には、お礼申し上げます。多数の撮影会参加者が二会場でカメラの砲列

翌6月18日(日)、参加者210余名が、亀山八幡神社の専用神楽舞台前に集合した。開会式の後、午前10時より壬生の花田植保存会総勢30余名が、サンバイを先頭に行進。サンバイは緋の着物に袴姿で菅笠をかぶり、田植え唄を歌って花田植の指揮をとる。早乙女は、かすりの着物に襷掛け、豆絞りの手ぬぐいに菅笠を被った艶やかな出で立ちで、いっそう華やかさを演出した。いよいよユネスコ無形文化遺産「壬生の花田植」の始まり。お囃し、牛の代掻き、早乙女の苗とりから、お囃子の流ちょうな田植え唄のリズムで、早乙女たちによる壮観な田園絵巻が、カメラの放列の中で繰り広げられた。花田植が行われているいっぼうで、神社境内の専用高舞台では、雄鹿原上

組神楽団の笛・太鼓が鳴り響き始め、二つの撮影会場とも熱気を帯びたカメラマンで埋め尽くされ、興奮状態の撮影が展開された。

撮影会参加者からは、両会場とも素晴らしい被写体で、十分に撮影が楽しめたとの感想を多くいただいた。見学された町内の皆さんからも、二つの会場で同時開催は、目の離せない展開で楽しめた。広島の伝統行事が、全国から参加された人々のカメラに収まったことが素晴らしいと好評であった。なお、宮司のご協力で、午後1時30分から3時まで、再度、高舞台を中心に再演された。境内に林立する杉の大木などを取り入れた演出もあり、撮影に熱中して時の経つのを忘れた参加者も多かったのではと思う。そして、芸北オーケグアデン代表・寿老靖彦様、亀山神社宮司・中東勇太郎様、花田植の田をご提供いただいた田中隆一様には、企画から終始にわたる大変お世話になり、お礼申し上げます。〈レポート: 秋田隆司(会員)〉



撮影会場への沿道に立ったのほり



垣村早苗 写真展「ゆる風の街～リスボン遊遊ルポ～」

3年前に二度リスボンを訪れた。大航海時代に英雄を輩出し、世界中に文化をもたらした国。そんな世界屈指の感は、今はなく、街には、穏やかな日常時間が流れている。爽やかな風を浴び、トラムに揺られ、歩き巡り撮影した。(兵庫支部員)
○会期：7月14日(金)～20日(水)
○会場：富士フィルムフォトサロン大阪



大貫 亘 写真展「蓮池の夢」

茨城県北部にある蓮池の四季の変化の素晴らしさに心惹かれて取材し、その作品を写真集『蓮池の夢』として出版して間もなく20年になる。その後も機会ある毎にこの蓮沼を訪れ、様々な変化を捉え、二科展など様々なところで発表してきた。今回は、写真集から抜粋した作品と、最近の作品を展示する。(会員・茨城支部)
○会期：8月1日(火)～27日(日)
○会場：ギャラリー やまさん (☎ 0299-69-0112)



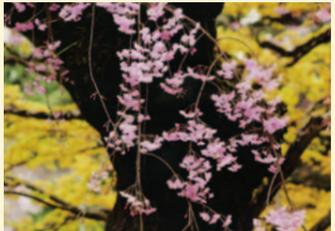
須藤秋男 写真展「みちのく鳥海山」

鳥海山(2236メートル)は、山形県と秋田県の県境にあって、日本海にも裾が広がっている。「秋田富士」あるいは「出羽富士」とも呼ばれ、広く地域の人々から親しまれている。9月下旬になると、秋の気配が日に日に増して、ナナカマドが赤く色づき、10月初めには7合目付近まで初冠雪がやってくる。山麓の静かな善神沼に朝の光が当たり、樹々が秋の彩りに染まる。その光を受けて、沼の水面に冠雪の鳥海山が姿を映す。感動的な美しい光景であった。(秋田支部員)
○会期：8月1日(火)～31日(木)
○会場：道の駅にしめ・写真ギャラリー (☎ 0184-33-4260)



金谷 登 写真展「一期一会 四季との出会い」

あまり遠距離でなく、何度でも通える場所を見つけて撮るように心がけている。同じ場所でも、自然や時間帯によって様々な姿を見せてくれる。そんな自然との出会いを大切にしながら撮影した作品を展示。(茨城支部員)
○会期：11月29日(水)～12月24日(日)
○会場：ギャラリー やまさん (☎ 0299-69-0112)



山岡成男 写真展「写真の原点と美」

今・感動・光と影・静と動・雰囲気描写など、写真を見て、写真の素晴らしさを感じてもらいたい。すでにカメラに魅せられて50余年、今年77歳の気持ちを初心に、これからもカメキチでありたい。(会員・兵庫支部)
○会期：8月15日(火)～27日(日)
○会場：アスピア明石 アスピア・スマイルギャラリー

「第38回 広陽カメラクラブ写真展」

秋田隆司会員(広島支部)が指導する写真展。
○会期：9月19日(火)～24日(日)
○会場：広島県立美術館地下市民ギャラリー第2・3展示室

「風の会写真展：四季賛歌」

井深寿一会員(広島支部)が指導する写真展。
○会期：10月10日(火)～15日(日)
○会場：広島県立美術館地下市民ギャラリー第1展示室

■【岐阜支部】
近藤誠宏会員が「岐阜県芸術文化顕彰」に選ばれる
岐阜県では毎年、芸術文化の各分野で優れた功績を上げた方々を顕彰している。2016年度の「岐阜県芸術文化顕彰」は、三人と3団体に贈られ、写真家では近藤誠宏会員(常任理事)が、その一人に選ばれた。表彰式は、今年3月27日(月)に、「ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール」にて行われた。
(岐阜支部長・辻 堅一郎(会員))

支部情報

支部展・支部公募展ほか

- 第42回北海道支部公募展
会期：10月7日(土)～19日(木)
会場：東川町文化ギャラリー
ギャラリートーク・10月15日(日)14:00(講師：蜂須賀秀紀会員)
- 北海道支部「撮影会」
日時：10月15日(日)15:30(場所：旭川市神楽岡公園一帯 指導：蜂須賀秀紀会員)
- 青森支部展
会期：7月21日(金)～23日(日)
会場：八戸ポータルミュージアムはっち(八戸市三日町)
- 第2回秋田支部会員・会友写真展
会期：7月28日(金)～31日(月)
会場：秋田市 アトリオン2F 美術展示ホール第2展示室
- 第41回東北地区公募展作品募集
青森支部、秋田支部、岩手支部、山形支部、宮城支部、福島支部の東北6支部による公募展の作品募集。(主催：福島支部)
資格：東北6県の在住者、出身者
テーマ：自由
サイズ：四つ切、A4判
応募料：支部員は5点まで、3000円(1点増5000円)。一般は3点まで3000円(1点増500円)
応募受付：9月1日(金)～15日(金)必着
賞：東北地区大賞ほか

- 第41回東北地区公募展
会期：11月21日(火)～26日(日)
会場：とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)
- 第25回栃木支部展
会期：7月12日(水)～16日(日)
会場：栃木県総合文化センター第2ギャラリー
- 新潟支部なかま達展
新潟支部員9名による写真展。
会期：7月27日(木)～8月1日(火)
会場：北陸ガスホール3Fギャラリー
- 2017新潟支部展
会期：10月31日(火)～11月5日(日)
会場：新潟市民芸術文化会館4階ギャラリー りゅうとぴあ
- 東京支部展
会期：9月1日(金)～7日(木)
会場：フレームマン・ギンザ・サロン
- 第50回神奈川県支部公募展作品募集
応募資格：神奈川県在住、在勤者
神奈川県の写真クラブ所屬及び現支部員
テーマ：自由(単写真)
サイズ：四つ切、A4判
応募受付：12月5日(火)～20日(水)必着
応募料：支部員は1点1500円、一般は1点2000円(共に枚数制限なし)
賞：神奈川県支部二科大賞ほか
- 第37回千葉支部展
会期：10月24日(火)～29日(日)
会場：千葉県立美術館第6室
- 第29回山梨支部展
会期：7月2日(日)～30日(日)
会場：プロラボ富士「ギャラリー」

- 富士
- 第23回長野支部公募展
会期：11月14日(火)～19日(日)
会場：八十二銀行本店「ギャラリー」(長野市)
- 会期：11月22日(水)～26日(日)
会場：茅野市民館「市民ギャラリー」(茅野市)
- 第33回石川支部公募展作品募集
応募資格：石川県に在住の写真愛好者
テーマ：自由(単写真に限る)
サイズ：四つ切、A4判
応募受付：9月1日(金)～7日(木)必着
応募料：支部員は3点まで、3000円(1点増1000円)、5点以上10点まで5000円。一般は3点まで5000円(1点増1500円)
賞：石川支部賞ほか
- 第33回石川支部公募展
会期：11月29日(水)～12月3日(日)
会場：石川県立美術館 第7展示室
- 静岡支部「秋季写真教室」
静岡支部恒例の秋季写真教室。
日時：11月18日(土) 13:30～15:00
会場：静岡県教育会館(大会議室)
参加費：1000円(静岡支部員は無料)
講師：蜂須賀秀紀会員
問合せ：事務局(松島茂雄) ☎ 080-1608-9867
- 第41回愛知支部公募展
会期：10月31日(火)～11月5日(日)
会場：愛知県美術館ギャラリーJ室
- 第65回二科会写真部展岐阜県内入選作品展

- 会期：10月12日(木)～17日(火)
会場：岐阜ヤナガセロイヤルホール
- 京都支部展
会期：9月29日(金)～10月4日(水)
会場：AMS ギャラリー2
- 第101回二科展(京都巡回展)
会期：10月24日(火)～29日(日)
会場：京都市美術館別館
- 第12回滋賀支部展
会期：8月23日(水)～27日(日)
会場：草津市立図書館ギャラリー
ギャラリートーク・8月27日(日)14:00
- 岡山支部展
会期：9月26日(火)～10月1日(日)
会場：岡山県天神山文化プラザ 第2展示室
- 第39回広島支部公募展作品募集
応募資格：広島県在住者、在勤者
テーマ：自由(単写真、未発表作品に限る)
サイズ：四つ切、A4判
応募受付：7月18日(火)～28日(金)
応募料：支部員は無料(応募点数3点まで)、一般は1点1000円(応募点数は制限なし)
- 賞：広島支部大賞ほか
- 第39回広島支部公募展
会期：10月17日(火)～22日(日)
会場：広島県立美術館地下市民ギャラリー第2・3・4・5展示室
会期：11月21日(火)～26日(日)
会場：ふくやま美術館ギャラリー
- 第54回山口支部公募展作品募集
応募資格：山口県在住、勤務者
テーマ：自由(単写真・組写真)
サイズ：全紙(パネル貼り)
応募受付：10月8日(日)～22日(日)
応募料：支部員は1点1000円、一般は1点2000円、学生は1

- 点1000円
賞：山口支部大賞ほか
- 第54回山口支部公募展
会期：12月1日(金)～3日(日)
会場：周南市美術館
- 鳥取支部展
会期：7月21日(金)～25日(火)
会場：米子市美術館第一展示室(米子市)
- 会期：7月28日(金)～8月2日(水)
会場：中電ふれあいホール(鳥取市)
- 第16回鳥根支部展
会期：7月26日(水)～30日(日)
会場：タウンプラザしまね(松江会場)
- 会期：8月9日(水)～13日(日)
会場：石正美術館(石見会場)
- 第9回徳島支部展
会期：7月14日(金)～18日(火)
会場：徳島市ショッピングセンター
- 高知支部展
会期：9月19日(火)～24日(日)
会場：高知文化プラザ「かるぽーと」7階第4展示室
- 宮崎支部展
会期：2018年1月16日(火)～21日(日)
会場：宮日会館(宮崎市)
- 熊本支部会員・会友展示会
会期：8月3日(木)～8日(火)
会場：メガネの大宝堂ギャラリー(熊本市)
- 熊本支部展
九州・沖縄地区公募展と同時に開催。
会期：2018年3月13日(火)～18日(日)
会場：熊本県立美術館分館(熊本市)
- 鹿児島支部展
会期：11月21日(火)～26日(日)
会場：ギャラリー 杜(鹿児島市)



写真部展会場で行われた森井理事長のギャラリートークに多数の入場者が参集し、熱心に聴講した。

第101回二科展(巡回展)を福岡で開催

第101回二科展の福岡巡回展が福岡県立美術館にて、3月22日(水)～26日(日)の会期で開催された。

3月21日(火)に飾り付けを行い、名誉会員・会員・会友の作品509点と一般公募入賞作品及び九州各支部と山口支部の入選者の作品120点を展示した。会場の関係で展示点数は昨年の半分程度になったが、バラエティーに富んだ展示となり、好評裡に終了することができた。

3月21日(火)に前夜祭を開催し、森井禎紹理事長が出席して挨拶をされた。また、会期初日の22日(水)には、森井理事長のギャラリートークがあり、大変有意義な展覧会となった。(福岡支部長・中野洋七(会員)～

information

■ 2017 年度行事予定

- ◎第102回二科展 (=第65回写真部展)
9月6日(水)～9月18日(月) / 国立新美術館
- ◎ 2017 年度夏期定時会員会友総会 (出席者は名誉会員・会員・会友)
9月8日(金) / 東京プリンスホテル
- ◎第65回二科会写真部展授賞式・懇親会 (出席者は来賓・名誉会員・会員・会友・入賞者・入選者および同伴者)
9月8日(金) / 東京プリンスホテル

■ 2017 年度会員会友推挙者 (2017年9月8日付)

● 会員推挙 13 名

中尾譲治 [富山]、真部信太郎 [福島]、高橋徹也 [埼玉]、鈴木 勝 [群馬]、益田 昇 [静岡]、永田光弘 [長野]、大橋吉郎 [石川]、岡本正史 [兵庫]、松井秀雄 [大阪]、藤井壽雄 [山口]、田内喜美子 [高知]、米倉保幸 [鹿児島]、吉村雪江 [福岡]

● 会友推挙 58 名

五十嵐邦彦 [秋田]、石澤昭雄 [山形]、黒岡 隆 [福島]、佐藤由弘 [福島]、工藤信朋 [新潟]、鍋木康之郎 [東京]、土屋祥子 [東京]、中村不二男 [埼玉]、宮崎倉明 [群馬]、大川元通 [茨城]、金谷登 [茨城]、境田洋子 [茨城]、渡辺清 [茨城]、有泉義行 [山梨]、井出吾朗 [山梨]、小俣 仁 [山梨]、平田弘治 [静岡]、深澤 讓 [静岡]、加藤勝己 [愛知]、瀬瀬明美 [愛知]、高村昌利 [愛知]、深谷邦雄 [愛知]、浅野輝雄 [岐阜]、梅村幸男 [岐阜]、安田保郎 [岐阜]、加藤洋子 [三重]、清水佑紀 [三重]、西井寛一 [三重]、西村康夫 [三重]、山田善和 [三重]、吉野聖夫 [三重]、北中和子 [石川]、内田

玲子 [兵庫]、小田祐子 [兵庫]、寅屋壽廣 [兵庫]、龍田経子 [和歌山]、朝井章二 [鳥取]、鷹取教示 [岡山]、宇都宮雅江 [広島]、大宮悦子 [広島]、河中文雄 [広島]、佐藤秀士 [広島]、棚谷彰 [広島]、中曾郁夫 [広島]、藤川豊子 [広島]、森田浩志 [広島]、棚橋仁志 [徳島]、高木昭 [愛媛]、藤澤榮子 [愛媛]、山脇明 [愛媛]、江藤聡子 [熊本]、田中 寛 [熊本]、山川 勇 [熊本]、近藤幸子 [福岡]、武田新一 [福岡]、椋本和範 [福岡]、山口博信 [福岡]

■ 『第65回展二科会写真部作品集』

2017 年度「第65回二科会写真部展」に展示予定の、名誉会員・会員・会友及び一般公募部門入賞・入選の総 1347 作品をオールカラーで収録した貴重な作品集です。巻末に入賞者受賞感想、第1回から第65回展までの入賞者・会員会友推挙者一覧、名誉会員・会員・会友・入賞者・入選者の作品目録などを掲載。

並製本・サイズ A4 判変形 (297 × 225 ミリ)・454 ページ (カラー 398 ページ、本文 56 ページ)

頒布価格 15,000 円。名誉会員・会員・会友・支部員・第65回展入賞者および入選者は特別価格 13,000 円。支部員以外で第65回展の応募者は 14,000 円 (いずれも送料実費)。

※購入希望者は、所定の申込書を事務局にご請求ください。

■ 第102回二科展 (=第65回写真部展) 地方巡回展スケジュール

- 東海展：2017年10月3日(火)～10月9日(月) 愛知県美術館ギャラリー
- 富山展：2017年10月18日(水)～10

- 月22日(日) 富山市民プラザ
 - 京都展：2017年10月24日(火)～10月29日(日) 京都市美術館
 - 大阪展：2017年10月31日(火)～11月12日(日) 大阪市立美術館
 - 広島展：2018年1月9日(火)～1月14日(日) 広島県立美術館県民ギャラリー
 - 鹿児島展：2018年3月10日(土)～3月18日(日) 鹿児島県歴史資料センター黎明館
 - 福岡展：2018年3月20日(火)～3月25日(日) 福岡県立美術館
- ※会場によって展示スペースが異なるため、全ての作品が展示されない場合もあります。

■ 名誉会員・会員・会友情報

- 三澤和子(兵庫) 2月8日自主退会
- 中野敏生(三重) 3月1日自主退会
- 和久田時子(岡山) 3月16日逝去
- 太田正紘(北海道) 5月31日自主退会

■ 「熊本地震」義援金寄付について

Real28号の「熊本地震」義援金報告に、下記の2支部の義援金が欠落していました。お詫びし、改めて報告いたします。

- 山形支部＝公益財団法人山新放送愛の事業団へ 140,000 円を 2016 年 6 月 29 日に持参。
- 群馬支部＝日本赤十字社平成 28 年熊本地震災害義援金へ 25,654 円を 2016 年 6 月 29 日に振込。

■ 「支部員バッジ」を頒布します

支部員バッジは、支部員に頒布します。購入を希望する場合は、支部長が本部へ申請して頒布します。

●頒布価格＝1個 2,000 円